

桐生新町重要伝統的建造物群保存地区 散策



天正19年（1591年）に桐生新町が形成され、絹織物業を中心に発展した、桐生を示す象徴的な地区。江戸後期から昭和初期に建てられた主屋や土蔵、ノコギリ屋根の工場など、絹織物業に係る様々な建造物が一体となり、製織町として特色ある歴史的な環境を伝えています。以前は新戸新町と言っていましたが、現在は本町の一丁目、二丁目となっています。



①矢野本店

ここで矢野さんが雑貨、金融業を始めました。建物は大正時代の物で、現在はお茶屋。キリンビール群馬県の総代理店でした。



②長谷川邸

総整備工場で、改変しながら工事しています。

借りた方が新しくお店を開くことになっていますが、指定文化財ではないので外観を綺麗に整えています。

③書上商店

2階建ての大きな花屋さんがあります。書上商店といって桐生でも1、2を争う織物の買い継ぎ商の店舗。明治中頃の建物。大きな買い継ぎ屋でした。主屋には作家の坂口安吾さんが3年間暮らし、桐生で亡くなっています。



④玉上薬局

江戸時代から明治にかけて、薬を扱っていたお店。建物は文化3年に建てられたと伝えられています。色々と開国に対して尽力された方で、横浜の開港資料館に縁の建物が残っています。



⑤まちなか交流館

元々は織物屋さんの建物です。桐生市職員が地元の相談や、観光案内をする場所となっています。

⑥横山町通り

奥行き40軒から先が横山町。この先に代官屋敷があり、そこに繋がる道として横町という名前で出来た町です。

